

パブリックコメント結果の紹介

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)
コンテンツ流通促進作業部会メタデータチーム
神谷 優子(慶應義塾大学)

本日のアジェンダ

1. はじめに

2. パブリックコメントの紹介

- ・変更
- ・説明補記
- ・修正
- ・質問等への回答
- ・検討予定

3. 最後に

パブリックコメント集約の流れ

- 2022年10月31日
JPCOARスキーマVersion 2.0ドラフト版を公開
- 2022年10月31日～2022年11月25日
パブリックコメントを募集
- 2022年11月10日
メタデータ☆トワイライト2(50名参加)を実施



パブリックコメントの紹介 ①変更

■8 主題

本学はJunii2を用いてリポジトリを運用しています。

現在は経済系の論文のJEL分類コードを「シリーズ」に記載していますが、JPCOREスキーマに移行する際に「シリーズ」を使用するのは適切でないと考え、Subjectに移行させたいと考えています。

SubjectScheme="Other"を使用すると著者キーワードとの区別がつけられませんので、

```
<jpcoar:subject subjectScheme="JEL">B25</jpcoar:subject>
```

のように入力できたらと考えています。

JEL分類コードを統制語彙に追加していただく、あるいはWEKO3でsubjectSchemeを自由に入力することは可能でしょうか。



➤ subjectSchemeに「JEL」を追加いたしました。

■40 記録形式→物理的形態

「記録形式」としてdcterms:formatが導入され、注意点においてファイル形式はjpcoar:mimeTypeを用いること、推奨例によって折本、畳物など（の物理形態に限定すること）が示されていますが、dcterms:format本来の定義では"The file format, physical medium, or dimensions of the resource"とファイル形式も含まれており、スキーマ項目の説明をよく読まずにファイル形式にdcterms:formatを用いるなど混乱が生じそうに思います。既存の汎用語彙をその定義を限定して用いるのは、単一機関内などルールが徹底できる場合ならよいかも知れませんが、JPCOARのような広範囲での利用を想定する場合には、誤用を生む恐れが少なからずあります。用途を限定するなら独自のタームをdcterms:formatのサブプロパティとして定義し導入するほうが良いのではないのでしょうか。



- 新たに「jpcoar:format」を定義し使用することに変更
- 日本語名を「物理的形態」、英語名を「Physical Format」と変更

パブリックコメントの紹介 ②説明補記

■ 10 出版者 / 11 出版者情報

出版者と出版者情報の関係性がわかりにくいです。構造化された出版者情報への入力を今後推奨されていくのか、両方に入力しておく必要があるのか（ハーベスト先によっては、どちらかしか検索対象にならない、とかあるのでしょうか。）悩んでおります。



- ・既存のデータとの整合性や、利用機関の資料構成により必要な情報が異なることを勘案し、dc:publisher（10 出版者）と並列してjpcoar:publisher（11 出版者情報）を新設しました。
- ・両方に記入する必要はなく、利用機関の事情に応じて選択して記入します。
- ・dc:publisherを非推奨としたり、jpcoar:publisherを推奨とすることは現在検討しておりません。
- ・ハーベストについては、IRDBからの主要な連携先では、どちらかの要素だけがハーベスト対象になるということはない見込みです。両方に入力がある場合には、選択的に情報が取得される場合があります。

→ jpcoar:publisher（11 出版者情報）のjpcoar:publisherName（11.1 出版者名）の【説明】に「jpcoar:publisherDescription、dcndl:location、dcndl:publicationPlaceを記入する場合は、本項目を入力することを推奨する。」を追記いたしました。

■ 13 日付（リテラル）

日付と日付（リテラル）の関係性がわかりにくいです。12の日付が拡張されていますので、日付項目が原則で、不明部分や補足記述がある場合に、日付（リテラル）を補記として使用するというイメージであっておりますでしょうか。日付（リテラル）の注意点の「日付の記入を併せて行うことを推奨する。」という文言に、両項目の関係性をもう少ししたしていただけたら有難いです。



- 日付（リテラル）【説明】の2項目めとして
「datacite:date（日付）には、統制された方法により記録された日付情報を記入する。本項目では、統制された方法で記入することができない情報をリテラルに記入し、補完することができる。」を追記いたしました。

■44.6 カタログ<ライセンス>

推奨例にCCライセンスの記述しかありませんが、CCライセンスは、著作権者自らが付すことが予定されている権利表示なので、デジタルアーカイブの権利使用方法として適切とは言えないと考えています。クリエイティブ・コモンズ自身が、著作物がパブリックドメインである場合、その複製物に著作権ライセンスは適用されるべきではなく、著作物に著作権が存在する場合にのみ機能することを意図したCCライセンスが仮に適用されていたとしても、無効になるとの見解を示している以上、JPCOARがCCライセンスのみの活用を推奨する形に表示するのは、著作権に関する理解が誤っているように見えて、勿体ないかなと考えています。CCライセンス付与が全国的に普及してしまっているという現実は理解していますが、せめて**他の権利表示（Rights Statements）を併記する等、他の手段を取れないかな**と考えますが、いかがでしょうか。



➤ Rights Statements の事例を追記いたしました。

■44.7 カタログ<権利情報>について

本学では、Rights Statementsを採用しておりますが、参照URLをメタデータに記載するだけでは、権利情報としてわかりにくいことを懸念しております。CC-BYを採用される機関様も本学も、結局のところ、「所蔵機関表示・改変明示・利用連絡・成果物寄贈依頼」といったありふれたお願いを権利関係で伝えたいだけの場合が多いと推察しています。権利関係の概略を**自由記述で記載できる推奨例を記載いただくことは可能でしょうか。**



➤ カタログ<ライセンス>項目に自由記述の推奨例を追記いたしました。

パブリックコメントの紹介 ③修正

■ 3.6.1 所属機関識別子/4.6.1 所属機関識別子

現行のバージョン1.0.2の「3.6.1 所属機関識別子」の統制語彙には「kakenhi」が含まれておりますが、2.0Darft版の統制語彙には「kakenhi - 【非推奨】科学研究費助成事業の機関番号[→"e-Rad_Researcher"を利用]」とあり、「kakenhi」は非推奨となっております。改訂履歴に記載はありませんが、所属機関識別子「kakenhi」は非推奨で間違いないでしょうか。RORは公開されているIDのため、付与しやすいIDではありますが、RORへ統合されていく方針の背景をご説明いただけると有難いです。



- 「3.6.1 所属機関識別子」の統制語彙「kakenhi」の非推奨については、改訂履歴への記載漏れでしたので、修正いたしました。
- ROR (The Research Organization Registry) については、国内研究データの国際展開方針（「基本的な考え方」p.10「8. 国際展開」をご参照ください）に基づき、研究データ基盤システム（NII RDC）を提供する国立情報学研究所や科学技術・学術政策研究所（NISTEP）等の関係機関との調整により、採用することとなりました。

■ 3.6.1 所属機関識別子/4.6.1 所属機関識別子

①追加になった「e-Radの研究機関コード」は、「21」+科研費機関番号の5桁+「000」の10桁という理解でよろしいでしょうか。

②本文の統制語彙には「e-Rad_Researcherを利用」とありますが、改訂履歴には「e-Rad機関コードe-Rad_institution」とあります。本文統制語彙の「e-Rad_Researcher」は「e-Rad_Institution」の間違いではないでしょうか。



- 丁寧にご確認いただき、ありがとうございます。
「e-Radの研究機関コード」は、その後の関係機関との調整により採用を見送ることになりました。

■ 10 出版者

本文の注意点には「jpcoar:publisherDescription、dcndl:location、dcndl:publicationPlaceを記入する場合は、jpcoar:publicationを使用する。」とあります。「jpcoar:publication」は何を指すのでしょうか。「出版者情報」のことでしょうか。「出版者情報」の項目に、「jpcoar:publication」の記載はありません。



- 記述の誤りのため「jpcoar:publisherDescription、dcndl:location、dcndl:publicationPlaceを記入する場合は、jpcoar:publisherを使用し、dc:publisherに相当する内容をjpcoar:publisherNameに記入する。」に修正いたしました。

パブリックコメントの紹介 ④質問等への回答

■3 作成者

本学ではシステムリプレイスを機にメタデータスキーマの更新を予定しており、現在スキーマのマッピング及び識別子の補完作業を進めております。その過程で、何点か記述に迷う事例が生じています。

①アジア人名でカナヨミ、英字表記が複数存在する場合⇒SAFに該当しないためjpcoar:creatorNameで記述するが、言語コードは1回限りのため全て記述できない。



- 主たる氏名を作成者姓名 (jpcoar:creatorName) に記載いただき、それ以外の氏名については、作成者別名 (jpcoar:creatorAlternative) に記載することをご検討いただければと思います。

作成者別名は各言語の出現回数は1回に限らず、複数記入可能となっています。

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema/2.0/3-.5>

■3 作成者

②姓の変更がある場合の書き方⇒論文上のクレジットが「新姓 (旧姓)」表記だが、JPCOARスキーマ上でこの形が許容されるのかわからない。



➤ 個人名については基本的には「姓,△名」の形式で記述することになっていますが、一方で転記を原則としていますので、論文上の表記どおりに記載いただいても問題ありません。

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/faq/cat-a/86>

IRDBによるエラーチェックにも該当しないため、特段問題ないかと思われます。

<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/harvest/jpcoar/mapping>

または旧姓を「作成者別名」に記載いただく、という方法もあるかと存じます。

■3 作成者

③属性「creatorType」の追加について、例は「著」とありますが、本文が日本語でない場合は、どのように入力するのでしょうか。その場合の例もご教示いただけますでしょうか。



- 作成者の「creatorType」は寄与者の「contributorType」とは異なり、自由記述ができる属性となっております。これは「creatorType」に相当する適切な語彙がないかを検討しましたが、デジタルアーカイブ等で用いられている多様な役割を包括する統制語彙が現時点ではないと判断したためです。
- JPCOARスキーマはメタデータ流通のための規格となっており、目録規則とは異なりますので、洋書の著者の場合は〇〇と記載する、といったことを定めるものではありませんが、以下のような例もあることを紹介させていただきます。
「[著]」と補記する例：
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11617689>

■3 作成者

④「説明：ミドルネームがある場合は、「姓,△ミドルネーム△名」と記入する。」となっておりますが、入力順は、「姓,△名△ミドルネーム」ではないのでしょうか。



- ミドルネームの取り扱いはJPCOARスキーマ策定時のパブリックコメントでも複数のご意見をいただいております。複合姓として「姓」に含む場合、クリスチャンネームとして「名」に含む場合など、文化的背景によりミドルネームの取り扱いが異なるため判断が難しく、一般的な表記のとおり「姓,△ミドルネーム△名」とする方が良いのではないかとということで現状のようになっています。

■3.1 作成者識別子/4.1 寄与者識別子など

e-Rad Researchへの統合を推奨されるのはよいのですが、研究者自身か所属研究機関の事務代表者（すなわち研究部門）でないといわならず、図書館が識別子付与に積極的に推進していくのが難しいIDです。e-Radにログインできない場合、**e-Rad研究者番号が検索できるツール等があれば、ご教示いただけると助かります。**NRIDであれば、公開されているIDのため、KAKEN研究者のページのIDを参照すれば、図書館独自に識別子付与を推進していきやすかったです。そういう意味では、**どうして作成者識別子に、CRID (CiNii ResearchのID)を追加されなかったのかな**と思っています。識別子付与を推進していく方向性なのであれば、誰もが、その付与された識別子が正しいと判別できるIDを推奨していく方がよいのかなと考えますが、いかがでしょうか。



研究データへの対応においては、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（以下、「基本的な考え方」）」に記載された「メタデータの共通項目」への準拠を行っています。「基本的な考え方」は、科研費に留まらない「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」がシステムの対象として規定する公募型の研究資金を対象としているため、推奨をkakenhiからe-Rad研究者番号に変更いたしました。

- e-Rad研究者番号について、e-Radの公式な公開ページはありません。研究データを作成した研究者ご自身から情報を頂くことが望ましいと考えますが、「KAKEN-研究者をさがす(<https://nrid.nii.ac.jp/ja/index/>)」に記載された研究者番号と同一で、多くの研究者をみつけることができます。
- CRID (CiNii Research内での人物に関するデータのID番号) は、名寄せ統合等のデータ運用によって変更される可能性があり、永続的な識別子とらしくないため、採用していません。

■7.1 権利者識別子/34.1 学位授与機関識別子

上記項目の統制語彙には「kakenhi」と「GRID」が含まれておりますが、「3.6.1 作成者_属機関識別子」と「4.6.1 寄与者_所属機関識別子」の統制語彙ではどちらも非推奨に改訂されております。**同じように非推奨に改訂されないのでしょうか。**

また、「3.6.1 作成者_属機関識別子」と「4.6.1 寄与者_所属機関識別子」の統制語彙に追加された「ROR」は、上記項目の統制語彙には追加されないのでしょうか。



- 権利者識別子は、作成者識別子、寄与者識別子と共通の統制語彙となるよう、調整いたしました。
- 学位授与機関識別子については、『学位規則の一部を改正する省令（平成25年文部科学省令第5号）』の施行後、機関リポジトリにおいて積極的に入力されてきた項目であることから、「kakenhi」を非推奨にすることは見送りました。
- 状況を見て、今後の改定で「機関識別子」の統制語彙統合についても、検討して行きたいと考えています。

■23 助成情報

デジタルアーカイブに対するメタデータ記述にも、助成情報の入力を推奨されますか。
例えば、本学では、国文学研究資料館の協定事業や図書館振興財団の助成事業により撮影したデジタル資料画像をデジタルアーカイブに掲載しております。寄与者のSponsorだと意味合いが違うのかなと考えておりますが、いかがでしょうか。



- 図書館振興財団や科研費等の助成事業により撮影・公開するデジタル資料画像については、「助成情報 (jpcoar:fundingReference)」へ入力することで、助成事業側の情報とそれによる成果情報 (デジタル化されたコンテンツ) がつながるため、望ましいと考えております。
- 他機関との協力により撮影・公開するデジタル資料画像については、相手先機関との取り決めに従ってメタデータへの記載を行っていただくことになると思います。歴史的典籍NW事業で作成した画像を所蔵機関が公開及び利用する際は「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画により作成したものであることを明示する」と取り交わしているため、入力を推奨します。入力する項目についてなど、現在、『メタデータ流通ガイドライン (<https://iss.ndl.go.jp/information/guideline/>)』の「古典籍編」作成を進めており、そのなかでも、検討させていただきます。

■23.1 助成機関識別子

追加になった「e-Rad資金配分機関e-Rad_funder」コードを調べる公開ツールがあれば、ご教示いただけますでしょうか。研究部門に確認しないと、図書館ではわからないでしょうか。



- 「e-Rad資金配分機関コード(e-Rad_funder)」の一覧については、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)のページからの公開を予定しており、JPCOARスキーマガイドラインの「23.1 助成機関識別子」ページからもリンクする予定です。

■23.5 研究課題番号

「属性」の統制語彙に「JGN(体系的課題番号)」が追加されましたが、どのような場合に、「JGN」を入力するのでしょうか。科学技術・学術政策研究所が公開する課題番号の一覧「体系的番号一覧」にあれば、属性「JGN」を入力、一覧にない場合は、空値という理解でよろしいでしょうか。

例:科学技術振興機構の事業の研究課題番号「JPMJFS2145」

→「体系的番号一覧」にあるので属性「JGN」を入力

日本証券奨学財団「日証奨財2019第50号」

→「体系的番号一覧」にないので属性は空値



- JGNを入力する場合についてはご理解の通りです。
- JGNに該当しない場合は、awardURIがあればそちらを記入することになります。

■23.5 研究課題番号

研究課題番号の記載として、推奨例には以下のように、
「<jpcoar:awardNumber awardNumberType="JGN">JPxxxxxx</jpcoar:awardNumber>」
とあり、研究課題番号の冒頭に「JP」が付されておりますが、科研費番号の場合も、科研費番号8桁の前に「JP」を追加して、体系的番号一覧に沿って10桁での入力を推奨という理解でよろしいでしょうか。



- 科研費も、科研費の使用ルールにおける謝辞記載に準じた体系としてJGNの範囲に含めます。
【説明】にある例は修正しております。

■ 37 部編名

①部編名dcndl:volumeTitleですが、jpcoar:relationのhasPartとの使い分けがよくわかりません。
hasPart で足りるのではないか、と思うのですが。

②逐次刊行物のシリーズ名がタイトルに入った場合の各巻固有タイトルが、この項目になった場合、従来のタイトルには併記されていた情報を部編名にも分割するイメージであっておりますでしょうか。その場合、関連情報の記述がセットになることで、シリーズとしてのリンク情報がわかるようになるとの理解で、よろしかったでしょうか。



- ①関連情報(jpcoar:relation)は「登録するコンテンツと関連するコンテンツ間の関連性を記入する」項目となっております。推奨例にありますように、関連するコンテンツへのリンク先を指定する際などに使用いたします。そのため、登録するコンテンツそのものの情報を記述する項目、今回であれば「部編名」そのものを記述する項目としては関連情報ではなくdcndl:volumeTitleを使用する事としております。
- ②ご理解の通りで問題ありません。

■44.2 データセットシリーズ

データセットシリーズとカタログ情報等の関係について、教えていただきたいです。

データセットシリーズで、TRUEを設定する利点は、“inSeries”や“hasPart”によって、メタデータの親子関係を記述できる点にあるのでしょうか。構成としては、子：コンテンツ=アイテム=データセット=メタデータ単位で、その集合体が、親：カタログ情報=コレクション=データベースで、データセットシリーズはメタデータの親書誌という理解であっておりますでしょうか。親情報であるカタログ情報やデータセットシリーズを、今後メタデータとして流通させたいという意図があり、従来のコンテンツ単位のメタデータとの関係性を記述するために、データセットシリーズがあるのかなと思いましたが、推奨例に「true」とあるだけでは、わかりにくいかなと思いましたが、いかがでしょうか。

また、データセットシリーズのメタデータは、コンテンツと紐づかないメタデータであれば、デジタルアーカイブの公開画面では、親書誌のように子メタデータへのリンクだけ表示されるイメージなののでしょうか。



➤ いずれもご認識のとおりです。

確かに、現状ではカタログ情報とデータセットシリーズ、データセット（アイテム単位のメタデータ）の関係性が分かりにくいかなと思いますので、JPCOARスキーマVersion2.0のサンプルXMLの公開時に、データセットシリーズの例を追加する予定です。

2022年度内に公開予定です。今しばらくお待ちいただければと思います。

■44.6 カタログ<ライセンス>の統制語彙

file - ファイル／metadata - メタデータ／thumbnail - サムネイルのみ記述されておりますが、ビューワの規格によって注釈や翻刻を画像と一緒に表示させたりリンクさせたりする場合があります。メタデータ内の解説のみでは、表示しきれない分量になることも想定されます。統制語彙として、注釈・翻刻等を追加されるご予定はないでしょうか。



- Draft版リリース前に解説を対象として調査/検討いたしました。が、適切な語彙がないため現状の対応となりました。（同様にOthersも見送りました。）
今後とも検討を続けていきます。

■蔵書印のメタデータ

新規コンテンツとして**蔵書印のスキーマ**を追加しようと考えているが、印の字数・行数・色・陰陽・輪郭等蔵書印特有の項目をJPCOARスキーマに合わせて、どのように設定しようか悩んでおります。



- JPCOARスキーマはメタデータ流通に用いるためのスキーマとなっており、JPCOARスキーマで定義されていない項目であっても自機関のリポジトリやデジタルアーカイブで機関独自に項目を設けてご使用いただくことは可能です。
- 蔵書印のメタデータスキーマとしては、国文学研究資料館の「蔵書印データベース」のメタデータ項目などをご参考にしていただけるかと思います。
http://dbrec.nijl.ac.jp/CSDB_43577
- 独自の項目からJPCOARスキーマに変換される際には、詳細な項目名ではなくなりますが、内容記述、大きさ、物理的形態などがお使いいただけるかと思います。現在作成中のメタデータ流通ガイドライン（古典籍編）では、印記に関する情報も含まれる予定です。公開されましたらそちらもご参照ください。

■全体に対する要望

① English版は表示されないのでしょうか。

➡ 改訂内容の確定後に英訳を行うため、**Version 2.0の英語版は2022年度内の公開を予定しております。**今しばらくお待ちいただけますと幸いです。

② エクセルで公開いただき、改訂箇所を赤字や二重線で強調するなどして、どこが改訂されたか分かるように表示してほしい。

➡ **JPCOARのGitHub上に掲載**いたしました。
<https://github.com/JPCOAR/schema/tree/master/2.0/documents>

■全体に対する要望

③各スキーマを追加された背景等がわかりにくいいため、活用の方法が想定しにくい項目（リテラルな日付や重複する出版社情報、データセット項目等）が幾つかあります。スキーマに関する解説を文書で公開される等、初心者にはわかりやすいスキーマ運用をお願いできたら有難い

➡ 日付（リテラル）、出版者情報については類似する項目との使い分けについてそれぞれ説明等にて補足いたしました。データセットについては、**サンプルデータのXMLを2022年度中に公開予定**です。また、その他の項目も含め、メタデータ流通ガイドライン（共通編、古典籍編）において解説するようにいたします。

④IRDBのJPCOARスキーマ2.0対応は、いつ頃か？

➡ **2023年1月～3月にIRDBの改修を予定**しておりますが、リリース時期については調整中となっております。リリース時期が確定しましたら、国立情報学研究所よりIRDB利用機関へ通知予定です。

■全体に対する要望

⑤いろいろ追加するよりは、identifierType で NCID を指定するなど、ありものは使うことを推奨していただくのがよいかと思いました。

➡ 原資料の書誌が存在する場合は、関連情報として記載する推奨例を追加いたしました。

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema/2.0/20>

なお、ボーンデジタルの資料や必ずしも書籍に限定されないデジタルアーカイブコンテンツについても対応するため、JPCOARスキーマVersion 2.0ではデジタルアーカイブに最低限必要と考えられる要素や属性を追加しております。

パブリックコメントの紹介 ⑤検討予定

■ IIIFのプレゼンテーションAPIのバージョン対応

v2.0では43.1ファイル情報 > 本文URLのobjectTypeにIIIFを追加予定。マニフェストURIしか記述できないため、**プレゼンテーションAPIのバージョン情報とセットで記述できるようにしてほしい**



- 既存のJPCOARスキーマの要素／属性では対応する項目がなく、新設が必要となり、慎重な検討を要します。プレゼンテーションAPIのバージョン情報は、jsonファイル内から取得できるので、取得する手間は生じますが、情報が欠損する等の心配はないため、今回は引き続きの検討課題とさせていただきました。
- 今後、プレゼンテーションAPI 3.0の利用機関が増えてくるかどうかについても注視し対応の優先順位も含めて検討いたします。

■ 全体に対する要望

WEBのスキーマ項目のファセット上で、**項番が見えるようにしてほしい**



➤ Webサイトの改修に関わりますので、**次年度以降の検討課題**とさせていただきます。

たくさんのご意見をお寄せいただきありがとうございました。
引き続き次期改訂に向けて検討していきます。

ご清聴ありがとうございました